

南国市立稲生小学校PTCA

学校を核とした 地域コミュニティの再構築

実践事例



稲生小・学校支援地域本部

目次

はじめに	3
食育の推進	4~5
花育の推進	6~7
朝型社会の復権に向けて	8~9
地域文化の継承	10~11
情報発信への取り組み	12~13
図書室改装	14~15
稲生の文化が薫る日	16~17
持続可能な活動に向けて	18
PTAからPTCAへの軌跡	19



はじめに

「小学校は、地域の皆さんにとって心の拠り所であり、その地域の核である。小学校を核にして地域教育力の再生をしていこう」との思いから、PTA組織に地域を意味するC：コミュニティを入れたPTCA組織づくりを2005年より始めました。この間、いくつかの新しい行事を地域の皆さんの協力を得て進めていく中で、地域の方々からは『わしらは、PTCAのCだから』と言って参加してくれるまでになりました。

昨今の教育の大きな課題の原因の一つに、家庭を含めた地域社会の機能不全が挙げられると思います。地域社会の崩壊・機能不全に伴う、人間関係の希薄化という社会の歪が、現象として一番弱い子ども達にでてきているのです。地域社会の再生なくして、子ども達の教育の精神的基礎となる『思いやりや忍耐力、そして愛郷心』などが根付いていくはずはありません。

稲生小学校は、児童数が減少し、今や100人に満たない学校ですが、今後とも、持続可能性をめぐる課題を魅力あふれる活動展開へと昇華させていきます。

食育の推進

稲生小学校の学校行事支援には、田植えや稲刈り、玉ねぎ栽培、芋掘りなどの食農体験があります。ロング巻き寿司づくりは、地域の方の協力で収穫したお米を使って、地域の女性グループ「みのりの会」の方から、手順や巻き方を教わりながら挑戦しています。

2009年からは、2・3年の教室前にゴーヤを植え、緑のカーテンづくりを行いました。カーテンづくりのために、地域の方には、まずネット張りから行ってもらいました。

ゴーヤが成長すると目的の緑のカーテンになり、夏ころには、ゴーヤが順番に成長していきますので、家庭に持って帰って調理しました。

お米・玉ねぎ・芋など収穫したものは、一緒に植えたり収穫した方や、安全ボランティアの方や日頃お世話になっている方を招待してパーティーを開催しています。

このように「食育」を通して、PTCAを中心とする学校と地域との協働で学校行事がより地域とのふれあいを大切にしたものになっていますし、地域活性にもつながっています。



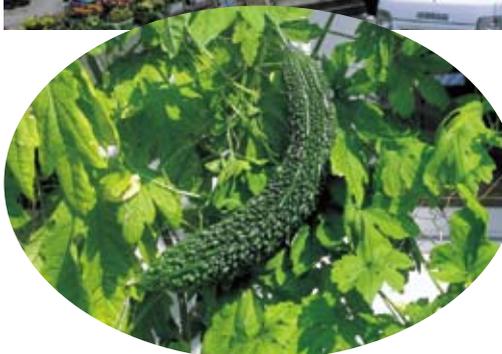
田植え



稲刈り



ロング巻きずし



ストーリーのある活動

稲生小の行事支援の特徴は、それぞれがストーリーのある展開がされていることです。「苗の植え付けから、収穫、そして食するところ」まで。それらの段階で地域の方が深くかかわっています。大切なことは、全てのことがつながっていることを活動から体感させることだと思っています。





玉ねぎ苗植え

稲生小で平成3年から始まったのが玉ねぎ栽培体験です。毎年、12月に3年生が地域の方の協力を得て、苗を植えます。



玉ねぎ収穫

翌年、苗を植えた4年生が5月に玉ねぎの収穫をします。玉ねぎの大きさは、その冬の天候に影響されることも学びます。



玉ねぎ袋詰め

泥を落とし乾燥させた後、5・6年生が5月に重さを測り袋詰めを行います。袋には、地域の方に習った調理法も入れます。



玉ねぎ販売

玉ねぎを近くの量販店で6年生が販売を行います。小学校で作った玉ねぎを多くの方に買ってもらう喜びを体験します。



福祉活動の授業

玉ねぎの売り上げを福祉団体に寄付します。その福祉団体の代表の方から、福祉活動についてのお話を教室で聞きます。



玉ねぎパーティ

玉ねぎ活動の最後に、お世話になっている方々を学校にお招きして、児童が調理した玉ねぎメニューでパーティを行います。

花育の推進

花育（はないく）とは、「花を教材に生命や個性について、子どもに考えてもらう活動」を指し、「食育」に続く、教育的な要素を盛り込んだ地域協力型の学校教育支援活動です。

稲生小学校では、他人の思いを察することにもつながる「花育」を「食育」と同様に体験型教育支援としてボランティア養成にも取り組んでいます。2009年は、学校の玄関をきれいにしようと、地域の方、保護者の協力で花壇にひまわりの種を蒔くことでスタートしました。見事に咲いた黄色の花を楽しみ、ひまわりアートにも挑戦しました。秋には、球根から花を咲かそうと専門家の指導を受け、チューリップ・ユリの球根を植えました。順に咲いたチューリップが1/2成人式・

卒業式・入学式と子どもたちを祝っているようにしました。2010年は、皇帝ダリア・サンパチェンスの栽培にチャレンジしました。今、地域全体に“花育の輪”を拡げています。



校庭に4本ある「仙台屋桜」



ひまわりアートに挑戦





秋に咲く皇帝ダリアと皇帝ひまわり

2010年に行われました文部科学省主催のまなびピアにて、視察会場に選定されたことを記念して皇帝ダリアを育て（桃色の花）、翌年からは、皇帝ひまわり（黄色の花）も“花育”しています。



地域に広がる皇帝ダリアと皇帝ひまわり

花が終わる12月中旬に、共に20cm程度に切断し、冬の間、地中に埋めます。4月頃、芽&根が付いた“挿し木”状態になります。2012年から、積極的に地域全体に広げる活動を始めました。



校門前 稲生小学校の“花育”のシンボルともなりました。



サンパチェンスと子ども





早朝・地域教育協議会

ラジオ体操をやるまでは、思いもよりませんでした。地域教育協議会をラジオ体操後に行えるようになりました。朝8時30分くらいから、行っていますので、まさに「早朝会議」です。



「早ね・早起き・朝ごはん」講義

国内でも第一人者である高知大学の原田先生から保護者・地域の方が「早ね・早起き・朝ごはん」の講義を受けました。2009年にとった南国市全体の保護者の生活習慣アンケートの結果を聞きました。



make a little space
heal our school.

朝型社会の復権に向けて

2007年より、毎週・週明けに行われる全校朝礼のときに、地域の方と一緒に、ラジオ体操しています。これは「子どもたちの姿勢が悪くなっている」という、保健指導の医師からの意見があったことと、南国市保健課より、「地域の方に運動習慣をつけてほしい」という話があったことから始めました。地域の方々は、朝のウォーキングも兼ねて子ども達と一緒に登校した後、朝礼で校長先生の話聞きラジオ体操に参加します。子ども達の学校生活を見ることもできますし、このように週初めが参加

者の楽しみの時間になりました。

また、2008年から学校支援地域本部事業の地域教育協議会をラジオ体操後に行っています。地域の方が朝から動く姿勢を見せ「家庭の教育力を麻痺させた原因である夜型社会の浸透を食い止め、朝型社会の復権を行う」ことを目標とし、高知大学で生活リズムを研究している教授の講演会も行いました。今後は、月一度のペースで協議会の後に学校の環境整備を行い、さらなる活動の充実を図っていきます。

e. make a better place.
make it a better place.



地域文化の継承

稲生小学校の校歌の最初に出てくる「下田川」にカッパ伝説があり、地区の中央部にある河泊神社で明治の初期より、夏祭り（旧暦6月12日）が行われています。子ども相撲が奉納されるなど地区にとって、最大の祭りではありますが、少子高齢化の影響もあり、規模がだんだん小さくなっていました。

そこで、学校支援地域本部事業に参画していただいている皆さんを中心に、カッパのフィギュアを活性化のシンボルとして創ることになり、フィギュアメーカーの海洋堂さんに依頼して製作。2009年のお祭りでお披露目いたしました。

原画は保護者の方が書き、また、右頬には一滴の涙が流れているという、特徴あるカッパが出来上がりました。小学校でも、カッパの勉強もし、地域文化の継承につなげました。

2010年7月には2体目も完成し、夏休み期間中は高知市民図書館に展示（2009年は南国市立図書館）。9月からは、京都国際マンガミュージアム、兵庫県立歴史博物館で展示されました。



右頬には一滴の涙

カッパフィギュアの製作データ

企画出資：稲生住民、小学校 PTCA、保育園保護者
原画制作：松岡知佐（2009年のPTCA副会長）
製作協力：(株)海洋堂
製作主体：海洋堂フィギュアミュージアム黒壁
(株)龍遊館、(株)奇想天外





新しい仲間

2009年の2学期の始業式に校長先生から転校生の「カッパ君」の紹介がありました。その後、総合学習でもカッパの授業が3年教室であり、子どもたちは自分で考えたカッパの絵を描きました。通常、カッパのフィギュアは小学校の2階の踊り場に置かれています。



◀2体目のフィギュア

情報発信への取り組み

PTCA化を進め始めた、2005年の7月に行ったことは、広報部の発展的解消です。それまで、学期ごとに発行していた広報誌を止めました。この理由は、慢性的に広報部員の希望者が少ないということが背景にありました。広報部を発展的解消させ、この頁の右にある、学年の広報誌の年間発行スケジュールを決めました。そして、発行責任は学年委員さんと学年担任にお願いしました。これにより、機動的に動くことができるようになり、学年委員も年に2回のみですので、負担もあまり感じず、広報誌の発行がこれ以降、順調に続いています。PTCAの成功の大きな要素として、地域への頻繁な情報発信があると思います。

一方、学校側は、情報発信で大きな成果を出しています。学校内で、地元・高知新聞への記事投稿を年間に百数十回行っており、右ページにあるように、生き生きとした子どもたちの記事を新聞で地域の方に見てもらえるようになっていきます。PTCAで大変重要な「情報発信」を学校側も積極的に行っているこの取り組みは、大いに誇ることでできるものです。

(記事コピーは高知新聞社 提供)

地域への小学校広報誌の配布(当初案)

発行月	学 年	主な内容
4月	1年生	新入生の紹介
5月	5年生	室戸合宿
6月	6年生	修学旅行
7月	4年生	社会科見学
	3年生	プールはじめ
9月	2年生	学年行事
10月	1年生	運動会
11月	5年生	合奏発表会
12月	2年生	学習発表会
1月	3年生	ふれあい参観日
2月	4年生	2分の一成人式
3月	6年生	卒業記念

そのほか、行事案内など

- 夏祭りの案内
- 廃品回収の案内
- 運動会の案内

2010年(平成22年) 1月31日(日曜日) 高 知 新 聞

ほぼ月1で壁新聞 南国市稲生小4年生

南国市の稲生小学校4年生17人は2009年度、ほぼ月1号、壁新聞を作ってきました。学校行事や地域の話題などから「面白い話を多くの人に伝えたい」「そんな思いで記事を書きました。」

壁新聞は昨年12月までに6号発行。総合的な学習の時間を毎月2時間くらい使って取り組んでいます。縦約110センチ、横約80センチの模造紙に記事や写真を張って作っていきます。「毛筆で学級目標を書いた」(4月号)、「玉ねぎのしゅうかく」(5月号)、「フールソウジ」(7月号)といった出来事を取り上げたり、その月が誕生日のクラスメイトを紹介してきました。

26日、12月と1月の2カ月分の壁新聞を作りました。学校行事は誕生日会とクリスマス会、物部川の山田壇(せき)への社会科見

学、書き初め、全校マラソン大会と盛りだくさん。その時々々の写真を見て思い出しながら書きます。日付が分からないものは先生に聞いたり、連絡帳で確認したり。

地域のことを書いたのは女の子2人。テーマは学校から見える満開の梅の花で、事典で梅のことを調べながらこんな記事にまとめました。

「ふつろ梅は二月ごろに赤や白のおいよいよ花が咲きます。ですが稲生の梅は二月に入ったころに咲き始めました」

教室のペラタンタから撮った写真も添えました。2人は「とても不思議なことだと、友達に教えたかった」と言っています。

ほかに書きたいことは多く、四コマ漫画特集も1枚分作り、計4枚。31日は地域の人や家の人が学校に来ます。4年生たちは「多くの人に読んでほしい」と期待していました。



実践ファイル



これまでの壁新聞の数々=上。デジタルカメラで写真を撮り、記事を書き、それを模造紙に張り付けて作ります。(いずれも南国市の稲生小)

NIE (Newspaper in Education=教育に新聞を)

こども高知新聞の「こども記者だより」。昨年度、そして本年度も最も多く投稿している南国市の稲生小学校を訪ねました。

南国市稲生小学校

▼1人、もしくはテーマが重なればグ
「地域のこと」のテーマから一つ選
「季節の話」「学校のこと」
「地域のこ」のテーマから一つ選
「地域のこと」のテーマが重なればグ
は書けません」と岡崎先生。「分
から

実践ファイル

昨年、稲生小は5年生12人全員が「こども記者」になり、10本の記者だよりを送ってくれました。本年度も5年生14人全員が9月半ばまでに58本、2位と20本以上の差をつけて断トツです。

発信者に！と記者だより投稿

記者だよりに取り組む5年生たち。左下は指導する岡崎先生
(南国市の稲生小)



(高知新聞社提供)

ループになって▼授業や家で書く。担任の岡崎一志先生(40)が文章指導してました。校庭で「緑のカーテン」のように育てているゴーヤーについて書いていた3人には…。「ゴうやって育ったか書かないと。いつ、誰が植えたんですか?」「春!」「2年生!」「ピンポン。ほかにも協力してくれた人たちがいますよ」「地域の皆さん?」「そう。それを書き加えて」「ゴうして「記者だより」ができていきます。」「新聞に載るので、あやふやなことは書けません」と岡崎先生。「分から

★南国市・稲生小★
ほくたちの学校には、自まんのゴーヤーがあります。写真。そのゴーヤーは、食べれるし、育ったら葉が伸びて、緑のカーテンとなって、部屋の中の温度を涼しくしてくれます。このゴーヤーは、2年生と地いきのおいちゃんたちが、協力して一生けん命に育ててくれました。つるをまきつけるために、朝早くから大きな竹を組んでくれました。そこにゴーヤーたちが元気にぐんぐんまきついて伸びていきました。
ゴーヤーは、いためてもいいし、ジュースやいろいろな食べ物になるから、一石二鳥です。
秋になったらオレンジのカーテンになって役目を終えようとしています。
ありがとう、来年も、よろしくね。
(5年、浜田裕生、井上幸大、高橋佳奈記者)

(高知新聞社提供 ゴーヤーの写真は P4 に掲載)



図書室改装

2010年に、読書推進で多くの実績がある方の直接指導による図書室改装を計画・実施しました。

6月末・7月初めに、小学校の図書室担当の先生と学校支援地域本部のコーディネーターにより、図書室改装の『実施目的と方向性』が話し合われました。その結果、図書室改装のテーマとして『子どもたちの居場所になる“カッパの住む稲生の心の原風景”を創出する』ことが確認されました。

8月末に、現在の図書室の本の確認が行われ、分類別に分けることと、古い本の処分をしました。作業には、父親を含む保護者と卒業生の子供高生も参加してくれました。

2010年12月から、月に一度、高齢者と低学年生による『絵本の読み合い』を1時限目を実施しています。双方により効果をもたらしています。

今後とも、読書活動の定着が課題としてあり、外部の協力も得ていながら、事業を充実していきます。



改装打ち合わせ



棚出し



父親も参加

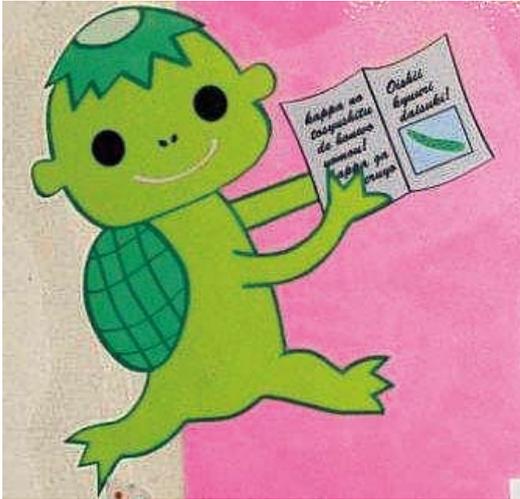


女子高生も参加



並び替え

高齢者との絵本の読み合い



子どもたちが考えたキャラクター



カッパのパズル



子どもの造ったカッパ



木のカッパ

カッパのパズルは、子どもが読んだ本の数だけ、ピースをはめていくものです。完成すると、それぞれ花育で育てているサンパチエンスを持ったカッパが浮き上がってきます。また、図書室の窓には、サンパチエンスを挿む仕掛けをした、かわいいカッパの絵が描かれています。



窓で泳ぐカッパ



稲生の文化が薫る日

2005年より、11月の最終日曜日を『稲生の文化が薫る日』として、午前中は、小学校で『学習発表会』、午後からは小学校の北隣の公民館で『ふれあい文化祭』が行われています。

公民館運営審議委員会と小学校、およびPTCAの話し合いで、決定されました。これにより、2つの行事の参加が増え、また世代間の交流推進に繋がりました。

小学校の学習発表会では、各学年の出し物が行われ、また、公民館の文化祭では、保育園児、小学生、中学生そして、地域の住人の方の絵画・陶芸・書・写真などの作品が並ぶ展示部門と演芸部門が行われます。

また、その『稲生の文化が薫る日』の頃に満開のなるように、保育園・小学校・公民館周りの田んぼに、コスモスの種をそれぞれの団体がまきます。種まき後、晴天が長く続くようでしたので、地区の消防団の皆さんに、田んぼへ散水をしていただきました。

学習発表会



コスモス植え準備



地区民でのコスモス植え



コスモス植え公民館前



2年生と保護者



消防団の散水



公民館展示



公民館演芸

2010年は、「まなびピア高知2010：全国生涯学習フォーラム」のフィールドワーク（視察受け入れ校）に選定していただいたため、「稲生の文化が薫る日」は、11月22日となりました。

当日、小学校では地域の方のゲストティーチャーによる「ふれあい参観」を行いました。

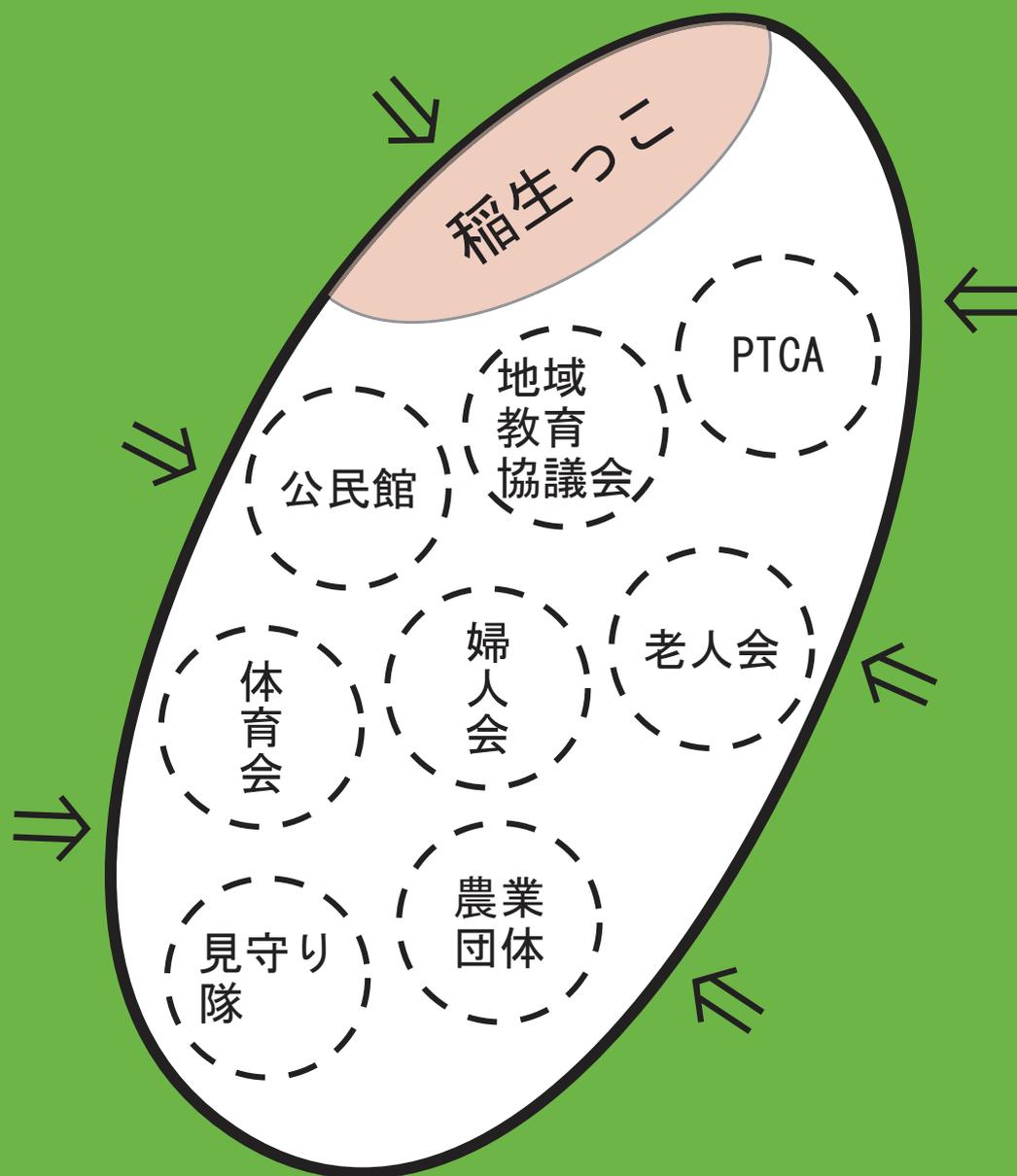


▲保育園とコスモス田んぼ



◀公民館・体育館とコスモス田んぼ

持続可能な活動に向けて



持続可能な地域の再構築に向けて！

稲生っこを稲の「胚芽」にたとえ、地区の子どもたちを支える機関の集まりを「胚乳」とした構成図であり、外部の指導・協力を頂きながら地域のDNAを進化させ、持続可能な活動を進めていきます。



PTAからPTCAへの軌跡

- 2005年4月：PTA会長の引き継ぎの際、「PTCA化への希望」伝達。
- 2005年6月：開かれた学校づくり推進委員会にて「PTCA化への協力」依頼。同会より了承。
- 2005年7月：PTA広報誌を年間15回程度、地域に配布実施決定。**※以降継続**
夏まつりの規模拡大復活。**※以降継続**
- 2005年11月：小学校の学習発表会と公民館の文化祭を11月最終日曜日と設定。**※以降継続**
- 2005年12月：安全ボランティア募集。ボランティアベスト作成。2007年に夏用ベスト作成。
- 2006年4月：PTA総会にて、「PTCA化の承認」議決。校門に、「PTAからPTCAへ」の看板設置。
- 2006年10月：運動会に「PTCA競技」をプログラム化。**※以降継続**
- 2006年11月：安全ボランティアの島村さん、財団法人高知県文教協会から学校教育サポート賞を受賞。
- 2007年2月：4年生の2分の1成人式に地域の方参加。**※以降継続**
- 2007年4月：週明けのラジオ体操に地域の方参加。**※以降継続**
校門横に「PTCA掲示板」を設置。
- 2008年4月：地域の方から、PTCA役員に3名就任。
- 2008年5月：文部科学省「学校支援地域本部事業」開始。
- 2009年7月：高知県PTA研究大会にて、事例発表。
- 2009年8月：かっぱのフィギュアを企画・製作。2010年7月に2体目製作。
- 2009年11月：全国生涯学習フォーラム・キックオフ大会にて、事例発表。
- 2009年12月：岡山県主催「社会教育実践研究交流会」にて、事例発表。
- 2010年4月：京都市にて文部科学省主催「社会教育・生涯学習ネットワーク研究協議会」にて事例発表。
- 2010年5月：筑波大学院・研究論文協力（2011年は、東京大学院・研究論文協力、講和実施）
- 2010年9月：図書室改装を実施 「かっぱの住む稲生の心の原風景」を創出。
- 2010年10月：融合研主催、融合フォーラム2010in富士山のまち富士宮にて、事例発表。
香川県教育委員会主催、地域支援指導者セミナーにて、事例発表。
- 2010年11月：全国生涯学習フォーラム、フィールドワーク受け入れ実施。
島根県雲南市教育委員会主催「雲南市教育フェスタ2010」にて、事例発表。
幡多地区教委連合会主催「学校支援から地域支援へ、新しい公共型学校づくり」の講演。
- 2010年12月：高齢者と低学年生との絵本の読み合い実施。**※以降継続**
- 2011年11月：「優れた地域による学校支援活動推進にかかる」文部科学大臣表彰
- 2012年6月：文部科学省・初等中等教育局編集『教育委員会月報6月号』
学校・家庭・地域の連携の推進特集号に活動記事掲載。
- 2012年9月：(社)全国公民館連合会主催「中四国公民館研究集会」事例発表。
全国ラジオ体操連盟より「高知県表彰」を受賞。
- 2013年2月：国の教育再生実行会議の委員・尾崎正直高知県知事の「対話と実行行脚」視察訪問。
- 2013年3月：文部科学省・生涯学習政策局発行『今こそ、PTA! 保護者と学校の協同を!』に掲載。



まなびピア高知2010 文部科学省主催
全国生涯学習フォーラム高知大会
「学校を核とした地域コミュニティの再構築」部会
平成22年11月22日(月) フィールドワーク(視察)会場



南国市立稲生小学校

〒783-0084 南国市稲生561番地1
TEL088-865-8246 FAX088-865-8247
<http://www.kochinet.ed.jp/inabu-e/>

このパンフレットは、上記HPにて『デジタルブック』として、ご覧になれます。

第5版

